

戦後日中関係論
—政策決定過程、国内政治と外交の視点から—

李 彦銘
研究室:Q5007

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

「外交は内政の延長である」。これは一国の対外政策、あるいは国際関係を理解する時の、古典的な視点である。国際政治を分析する際、理論的なアプローチが必要とされる一方、1990年代以降は、特に国際経済分野における協力関係の形成や対外経済政策をめぐる研究が進展し、国内政治と国際政治をリンクして考えることが主流となってきた。

本プロジェクト研究では、まず中国あるいは日本政府の政策決定過程を理解してもらう。戦後日中関係のなかで、様々な出来事を取り上げ、基本的な知識を習得する上で、歴史分析の方法を身につけてもらう。そして日本と中国の政治体制や国内社会の構造を比較しながら、現在の日中間の問題に対する理解を深め、解決策を立案する能力を高める。

これらのトレーニングは、国際組織や各国の政府、あるいは一省庁や企業、学校などの社会団体まで、あらゆる人間が為す団体に存在する内部力学を理解することにも役に立つ（国際政治と国内政治は大きな違いがあるが、両者とも政治学の研究対象である）。また、きめの細かい分析を重ねることは、参加者のファクト・チェック能力の向上につながる。本プロジェクト研究の参加を通じ、中国と日本の社会構造をより深く知り、地域研究の基本能力を鍛えよう。

2. プロジェクト研究の進み方

【3 年次】

Q1：総合演習 A（担当：李）と必ず合わせて受講する。プロジェクト研究ではグループ発表を中心とする。最近の時事問題（主に日中間）を事例として取り上げ、事例のなかの主要アクターを洗い出し、それぞれのアクターの立場と主張を確認する。ここでは、事実と解釈、主張を区別する練習を重ねる。Q2 はゼミがないため、短期留学などに積極的に活用し、地域研究に必要な語学力（中国語または英語）を身につけてください。

Q3 と Q4：テキストを指定して輪読する。使用するテキストは参加者と相談して決める。ただし Q3 は一次資料を中心に読み、ファクトチェックの基本を鍛える。Q4（グループ発表の場合がある）は先行研究を中心とし、因果関係の理解を深める。そして研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）の設定方法、研究のアプローチ（仮説の立て方と検証手法）を、先行研究の分析を通じて理解する。

【4 年次】卒業研究（個人研究）

テーマの決定→アウトラインの作成（マトリックスやマップを活用）・研究概要の発表→
先行研究の整理と発表→問いを立てる・研究手法の確定→（先行研究の整理・読み直し）
一次資料の収集と整理／中間発表（コメントを受けて一次資料の再収集と整理・問いや研
究手法の修正）→論文の執筆・完成

3.プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

特に指定はないが、国際政策コースの履修が望ましい。また「地域と文明 A（アジア）」（担当：李）の履修も望ましい。

4.プロジェクト研究開始までの準備

松沢裕作『歴史学はこう考える』（ちくま新書、2024 年）

阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』（光文社、2024）

5.その他

「南山の先生」(https://www.nanzan-u.ac.jp/nanzan_faculty/fop/pp/029658.html) を必ず参考し、自身の問題関心との関係を考えて上で応募してください。

また、事業時間外の共同作業があることは了承してください。みんなで決めたゼミのルールは必ず守ってください。

6.選考方法

（1）出願

理由書には現在の問題関心をひとつ、それから上記 4.で提示された文献の論点をひとつ選んで簡潔に述べてください。また、プロジェクトアワーには必ず出席してください（やむを得ない事情がある時のみ、個別面談で対応する）。

（2）選考

理由書、面接を総合して判断する。

（3）その他

プロジェクトアワーで説明する。